資料2

学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査結果について（概要）

令和４年１１月３０日
内閣府

就職・採用活動時期に関する認識

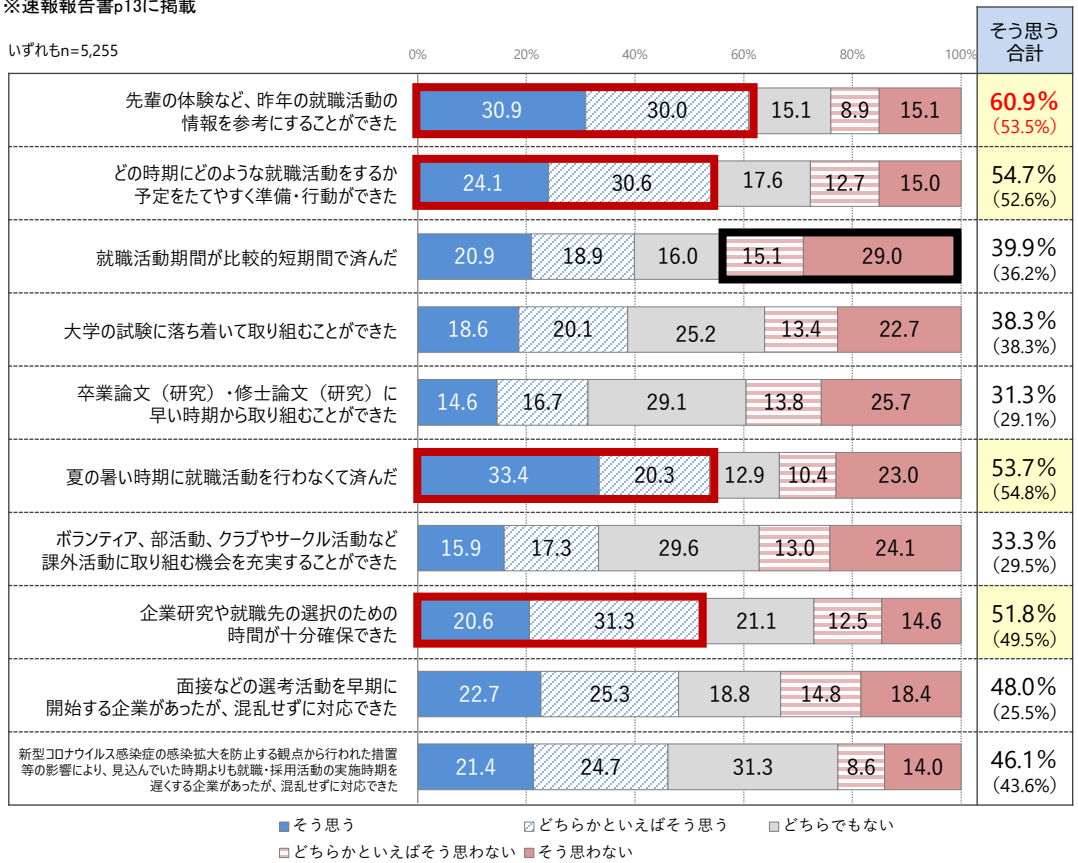
- 内閣府では、就職・採用活動の円滑な実施及び若者の安定的な雇用に資することを目的として、**就職・採用活動に関する学生の意識・行動等の実態について調査**を実施。（2022年度調査の有効回答数は5,652名（大学4年生：4,199名、大学院2年生：1,453名））
- 2022年度の就職活動時期が、昨年度と同じ時期であることについて、約５割の学生が「**昨年の就職活動の情報を参考にすることができた**」、「**予定をたてやすく準備・行動ができた**」、「**夏の暑い時期に就職活動を行わなくて済んだ**」、「**企業研究や就職先の選択のための時間が十分確保できた**」と回答、約4割は「就職活動が比較的短時間で済んだ」に対し「そう思わない」と回答。
- 就活ルール（広報活動3月、採用選考活動6月、正式内定10月）について、いずれの段階に対しても「**ルールは必要**」**とする人は約７割**。特に、「正式内定は10月1日」に対して、「**ルールは必要であり、現在の開始時期がよい**」**との回答の割合が最も高い。**

就職・採用活動時期に関する認識

※速報報告書p13に掲載

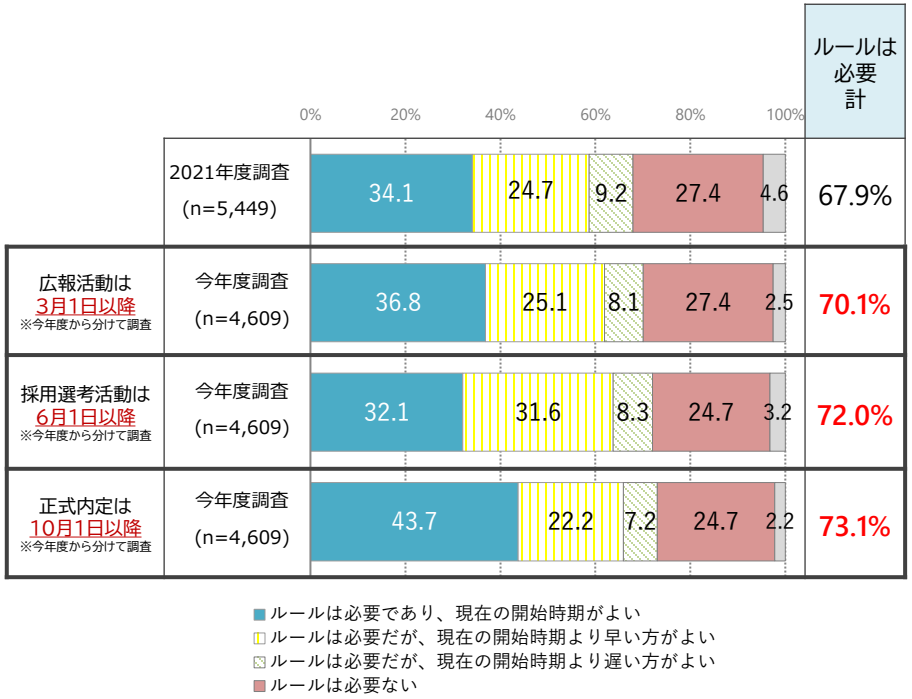
※かっこ内は昨年度の結果

いずれもn=5,255



就職・採用活動時期（就活ルール）に関する認識

※速報報告書p14に掲載



企業説明会やセミナーへの参加時期

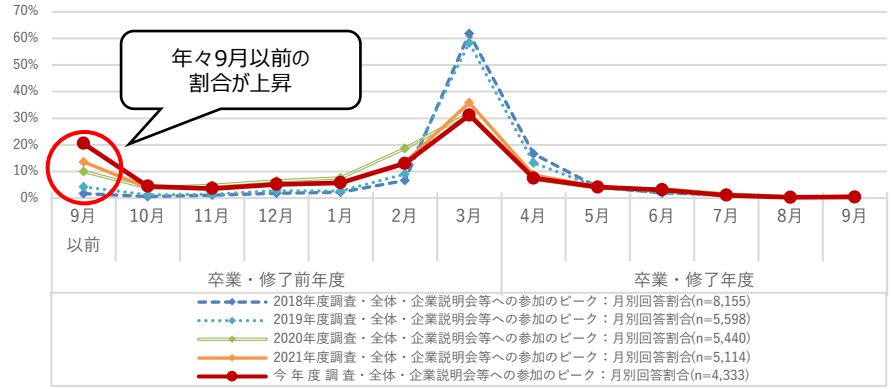
- **企業説明会等への参加時期（ピーク）**は、昨年度と比べ、**9月以前に参加したとする回答割合が上昇**し、**早期化は進行している**傾向。
- **「採用を目的とした※」企業説明会等への参加（ピーク）が、9月以前とする回答割合は、7.7％**（昨年は3.6％）。

※採用を目的としない説明会等（就職活動の準備に関する説明会、キャリアセミナー・マナー講座、自己啓発セミナー等）は省いて考えていただくように回答者に案内した上で調査を実施。

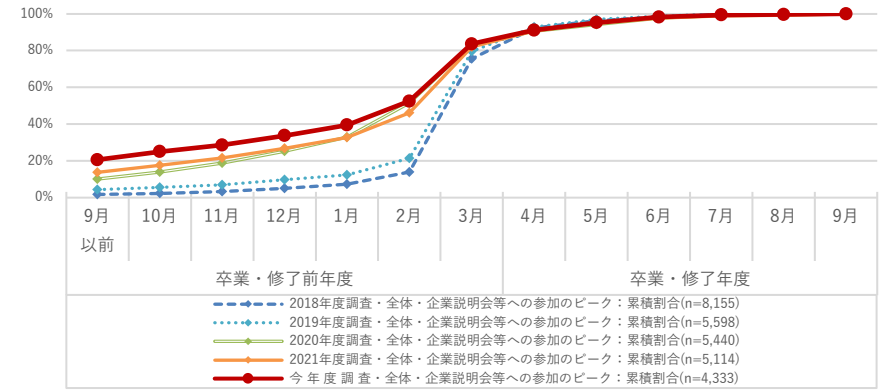
企業説明会やセミナー等へ参加した時期（ピーク）

※速報報告書p41に掲載

月別回答割合



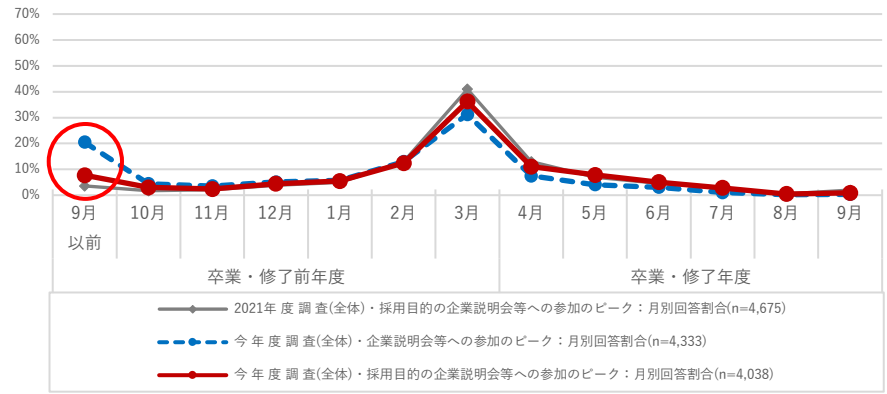
累計割合



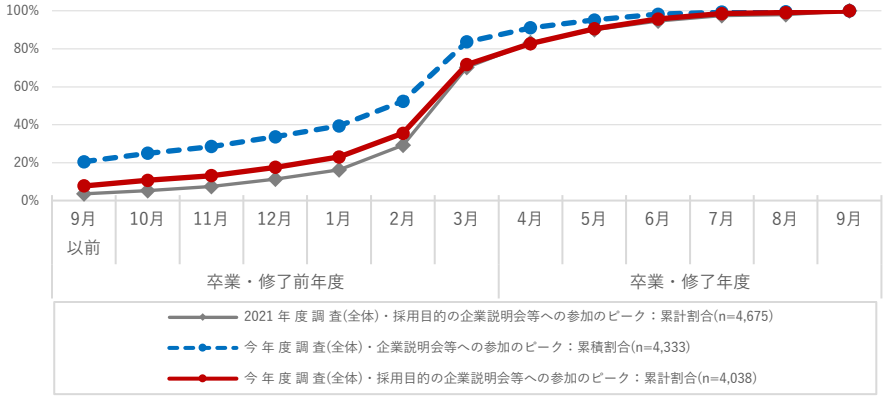
「採用を目的とした」企業説明会やセミナー等へ参加した時期（ピーク）

※速報報告書p75に掲載

月別回答割合



累計割合



採用面接の実施時期

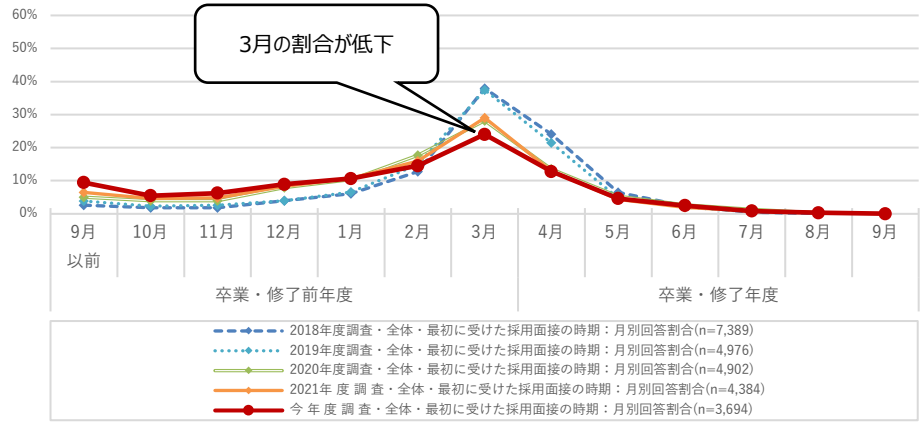
- **最初に採用面接を受けた時期**は、昨年度と比べ、**9月以前に参加したとする回答割合がやや上昇**し、**3月の割合は低下**。累計で見ると、**4月までに約9割の学生が面接**。
- **採用面接のピーク時期**は、過去調査と同様に**4月の割合が最も高い。累計で見ると、昨年同様の傾向。**

採用面接を受けた時期（最初）

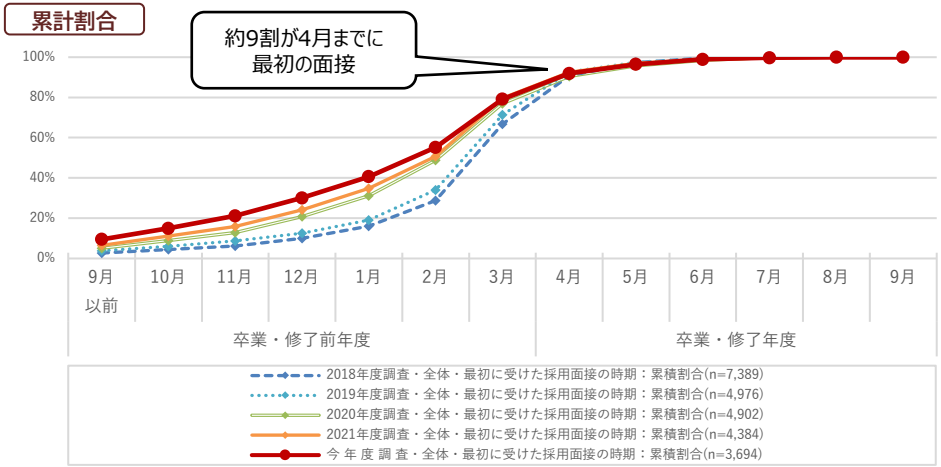
※速報報告書p51に掲載

※公務員・教職員志望者除く

月別回答割合



累計割合

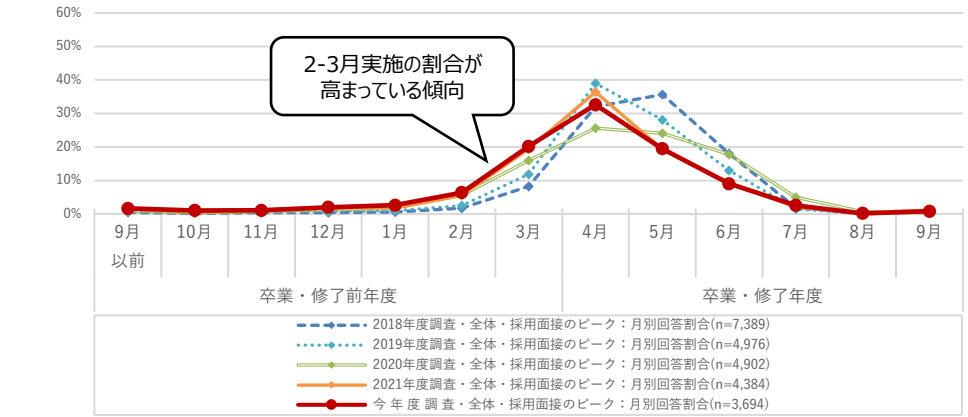


採用面接を受けた時期（ピーク）

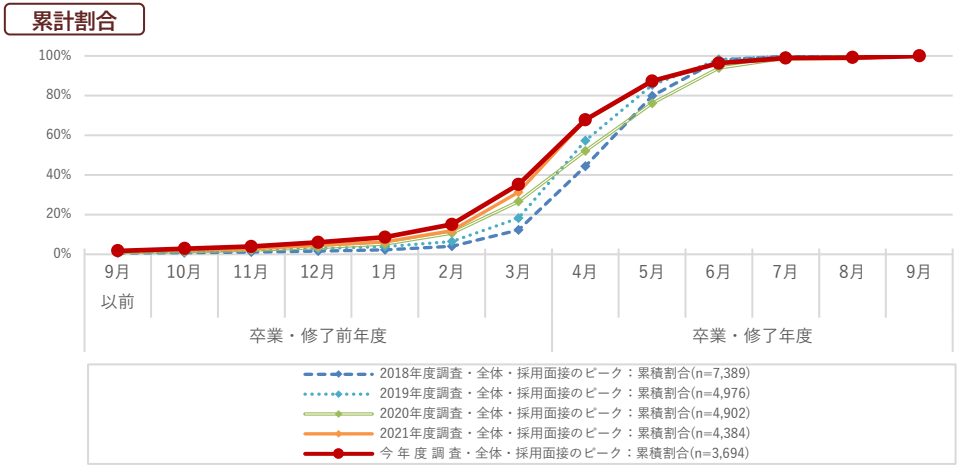
※速報報告書p51に掲載

※公務員・教職員志望者除く

月別回答割合



累計割合



内々定を受けた時期

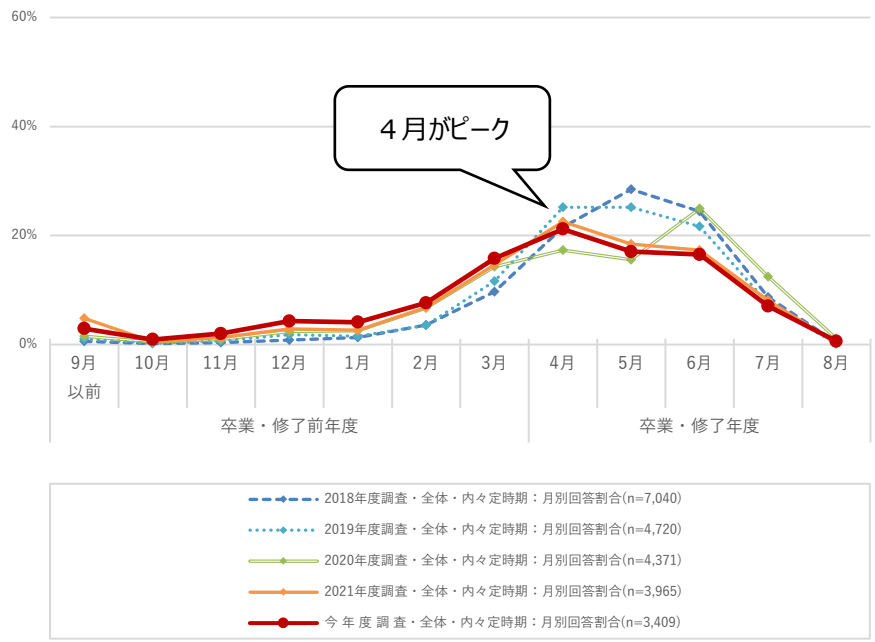
- **内々定を受けた時期**は、概ね昨年度と同様だが**趨勢的に12月から３月までが高まっている。**
- 累計では**６月までに約９割が最初に内々定を受けている。**

内々定を受けた時期（最初）

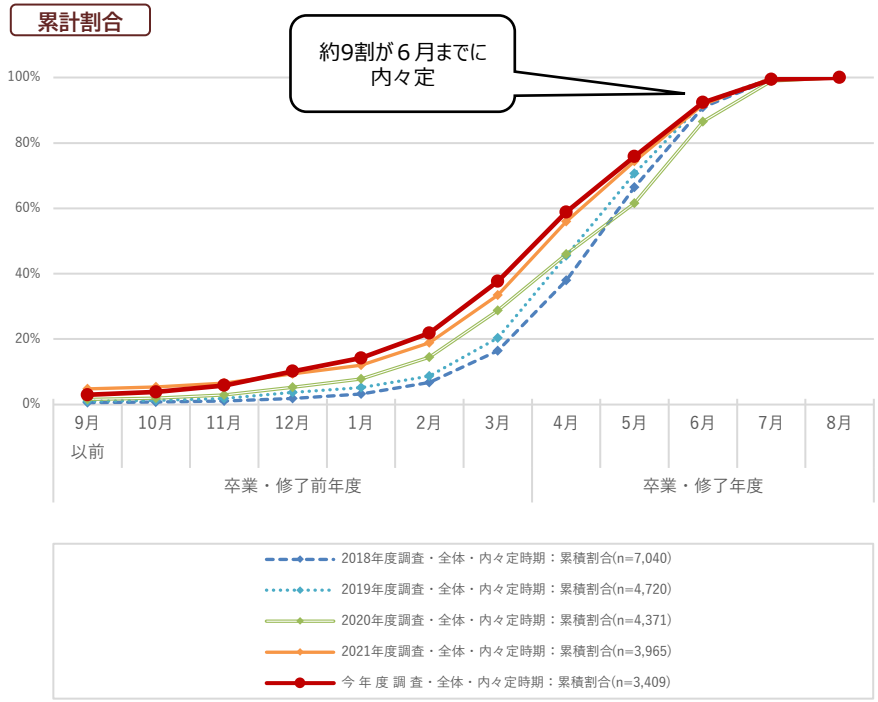
※速報報告書p57に掲載

※公務員・教職員志望者除く

月別回答割合



累計割合



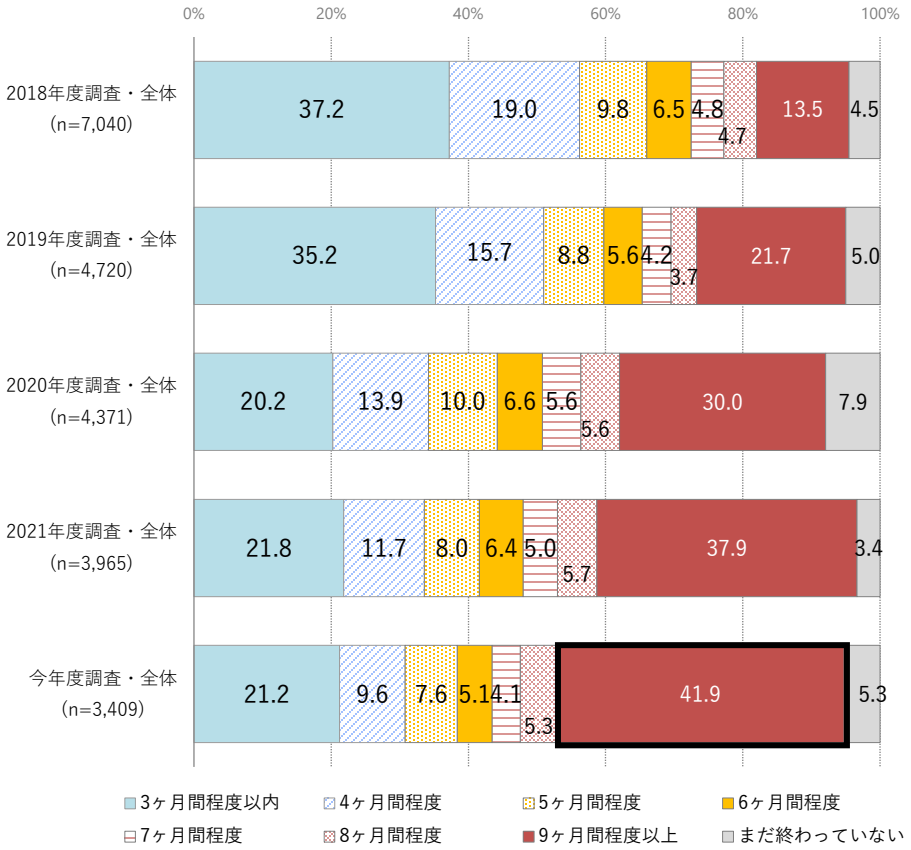
就職活動に要する期間、学修時間の確保

- **2022年度の就職活動に要する期間**は、「9ヶ月間程度以上」の割合が約4割と最も高く、**年々その割合は高まってきており、長期化の傾向。**
- 学修時間の確保については、**「卒業・修了前年度９月～１１月」、「卒業・修了前年度１２月～２月」で「確保できた」との回答が、昨年度より４％以上低下。**

就職活動の始まりから終わりまでの期間

※速報報告書p73に掲載

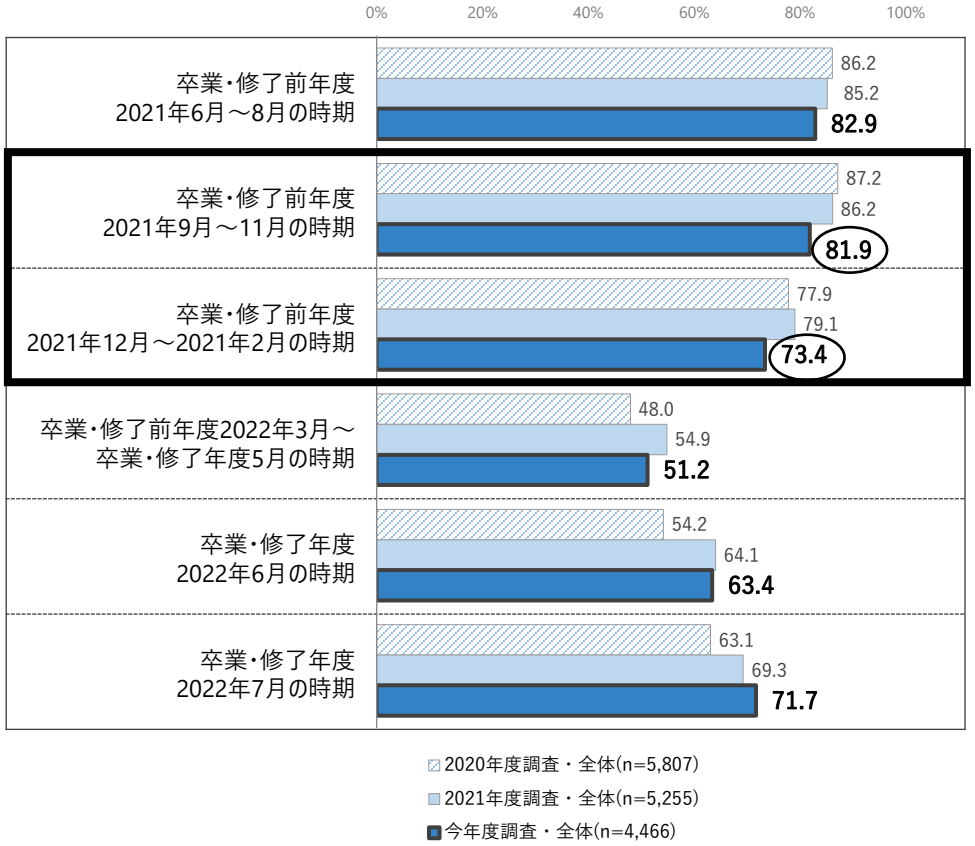
※公務員・教職員志望者除く



就職活動と学修時間の確保

※速報報告書p16に掲載

時期別の学修時間について、「十分学修時間を確保できた」「必要な学修時間は確保できた」「一定の学修時間は確保できた」のいずれかを回答した割合



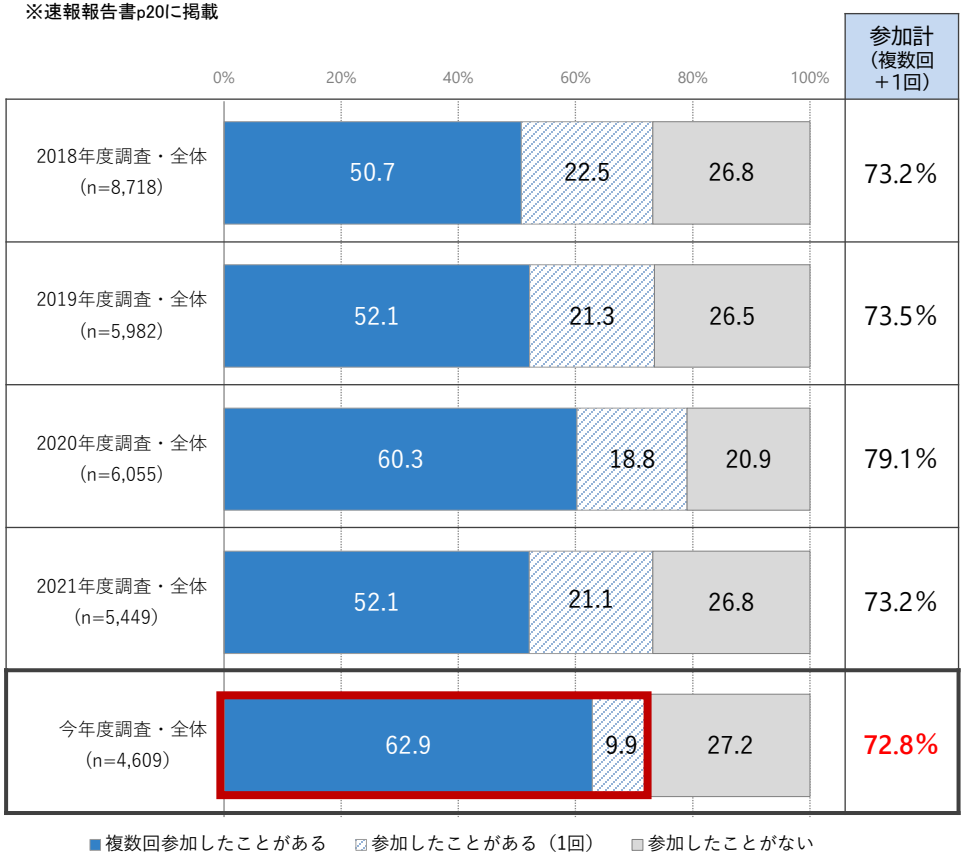
インターンシップ等への参加状況等

- **インターンシップ等※に参加した学生は７割超。**うち**「複数回参加」の回答が62.9%へと高まっている。**
- **参加したインターンシップ等のうち最長の日数**として、**「1日」又は「半日」と回答した割合は約４割。**
- **半日間又は1日間のインターンシップ等**の参加回数が占める割合は**83.5%へと上昇。**

※企業が「インターンシップ」や「ワンデー仕事体験」等と称して実施したプログラムをすべて含めて回答を求めた。

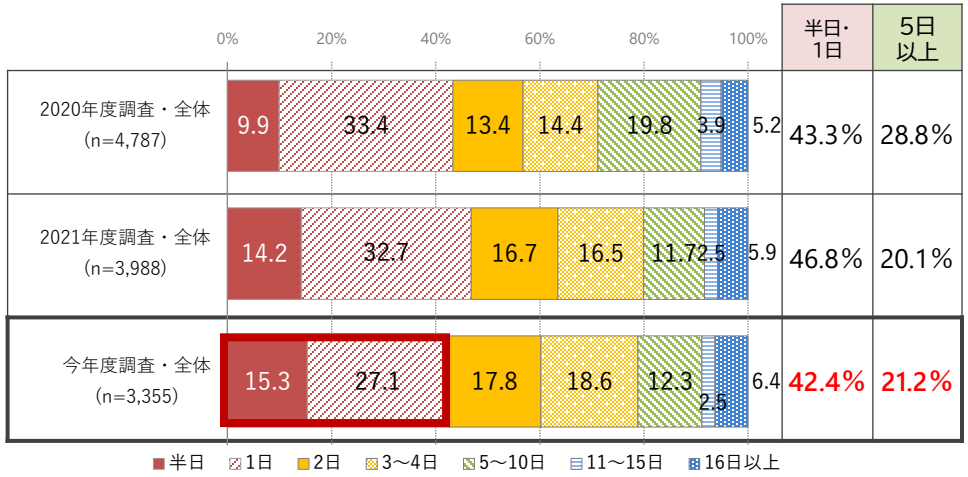
インターンシップ等参加経験の有無

※速報報告書p20に掲載



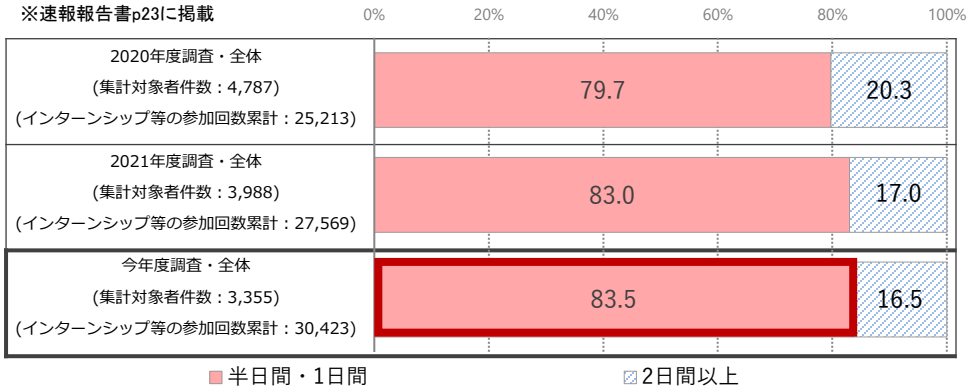
インターンシップ等に参加したうちの最長日数

※速報報告書p22に掲載



半日間又は1日間のインターンシップ等の参加状況

※速報報告書p23に掲載



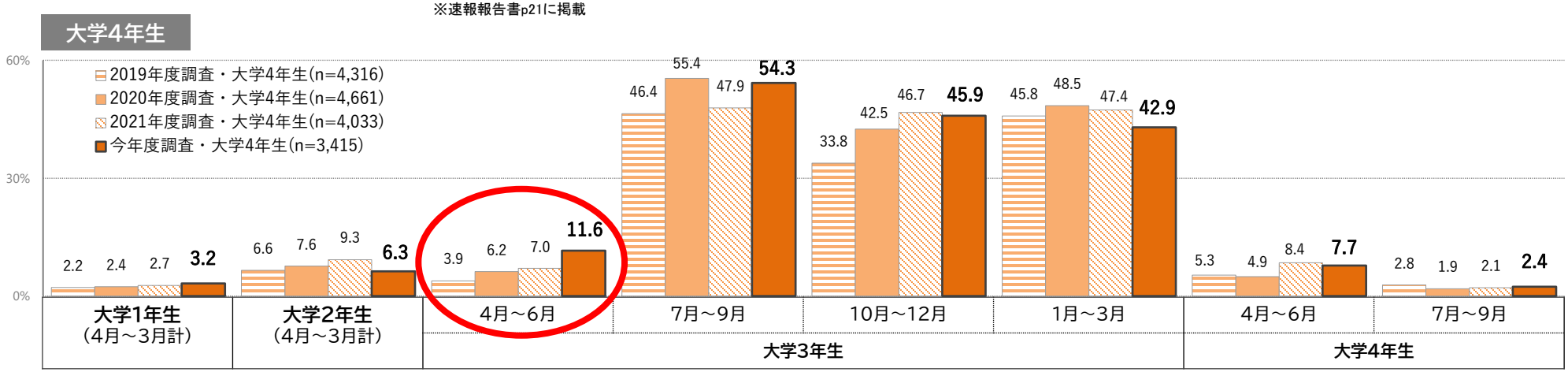
インターンシップ等への参加時期

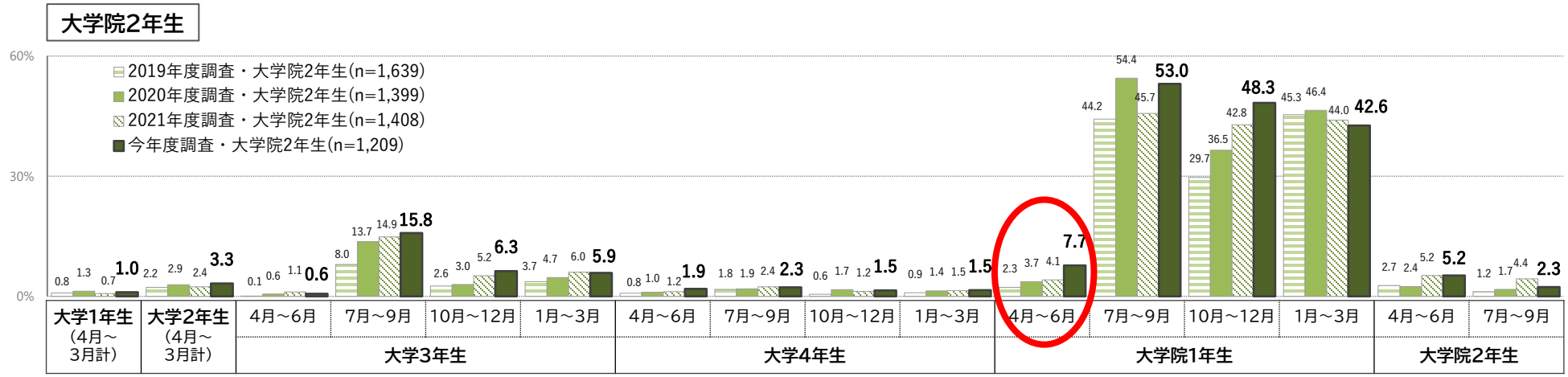
- インターンシップ等参加の時期は、**大学４年生では、大学３年生の７月から本格化。大学院２年生では、大学院１年生の７月から本格化。**ただしそれぞれ４～６月からが上昇。
- 2021年度調査と比べ、**今年度調査では大学3年生・大学院1年生の「7月～9月」の割合が上昇し、「1月～3月」の割合が低下している。**

※企業が「インターンシップ」や「ワンデー仕事体験」等と称して実施したプログラムをすべて含めて回答を求めた。

インターンシップ等への参加時期

※速報報告書p21に掲載





インターンシップ等に参加した効果

- インターンシップ等に参加した「**良い影響**」として、「**会社の雰囲気を理解することができた**」「**自分の将来設計（キャリアプラン）を考えるのに役だった**」等で「半日間または1日間」と比べ「**2日間以上**」**の方が、割合が高い。**
- 「**悪い影響**」として、「**学業に支障が生じた**」「**部活動・サークル活動に支障が生じた**」の割合が「**2日間以上**」**の方が高い。**「その他」として、**２日間以上のインターンシップ等では「参加した企業から内々定を受けることにつながった」とする割合が比較的高い。**

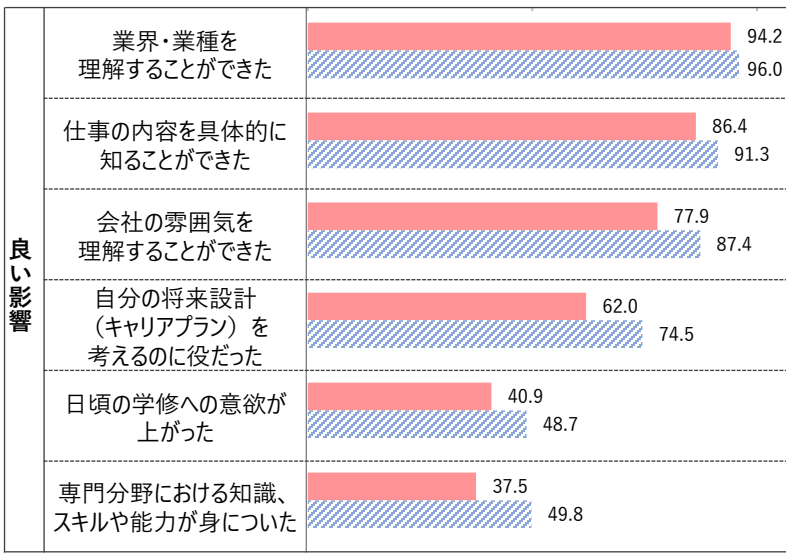
※企業が「インターンシップ」や「ワンデー仕事体験」等と称して実施したプログラムをすべて含めて回答を求めた。

インターンシップ等参加の効果

※速報報告書p30,31に掲載

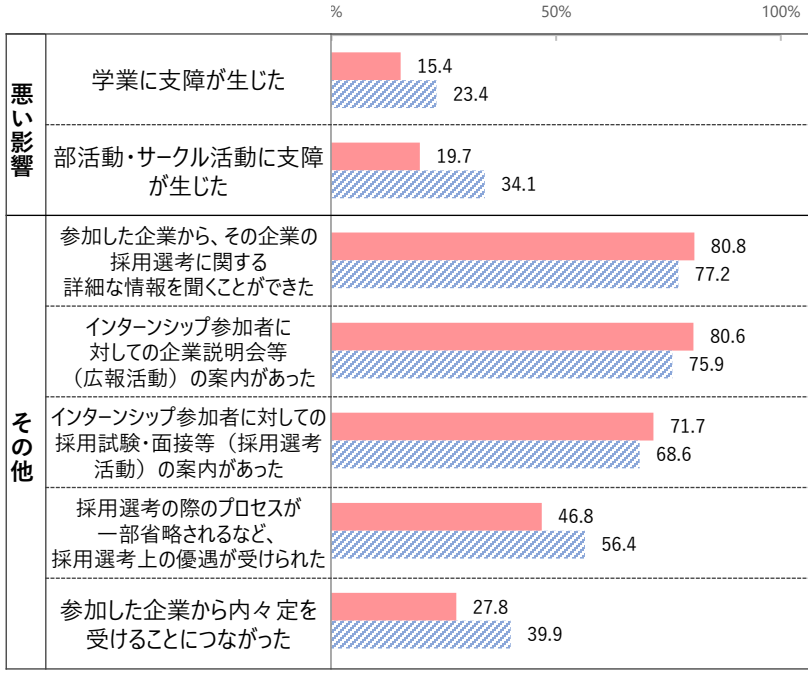
※グラフは「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値

※表は「そう思う」の数値（10％以上差があるものを赤字・赤枠で表記）



		「そう思う」 半日・1日	「そう思う」 2日以上
良い影響	業界・業種を理解することができた	57.7%	73.1%
良い影響	仕事の内容を具体的に知ることができた	46.8%	63.4%
良い影響	会社の雰囲気を理解することができた	36.9%	57.0%
良い影響	自分の将来設計（キャリアプラン）を考えるのに役だった	23.7%	35.7%
良い影響	日頃の学修への意欲が上がった	15.1%	20.9%
良い影響	専門分野における知識、スキルや能力が身についた	12.7%	19.9%

■半日間または１日間等のインターンシップ　(n=1,423)　▨２日間以上のインターンシップ等(n=1,933)



		「そう思う」 半日・1日	「そう思う」 2日以上
悪い影響	学業に支障が生じた	6.0%	8.9%
悪い影響	部活動・サークル活動に支障が生じた	8.5%	13.8%
その他	参加した企業から、その企業の採用選考に関する詳細な情報を聞くことができた	38.0%	40.1%
その他	インターンシップ参加者に対しての企業説明会等（広報活動）の案内があった	42.2%	44.4%
その他	インターンシップ参加者に対しての採用試験・面接等（採用選考活動）の案内があった	37.6%	44.2%
その他	採用選考の際のプロセスが一部省略されるなど、採用選考上の優遇が受けられた	23.7%	36.8%
その他	参加した企業から内々定を受けることにつながった	17.2%	27.6%

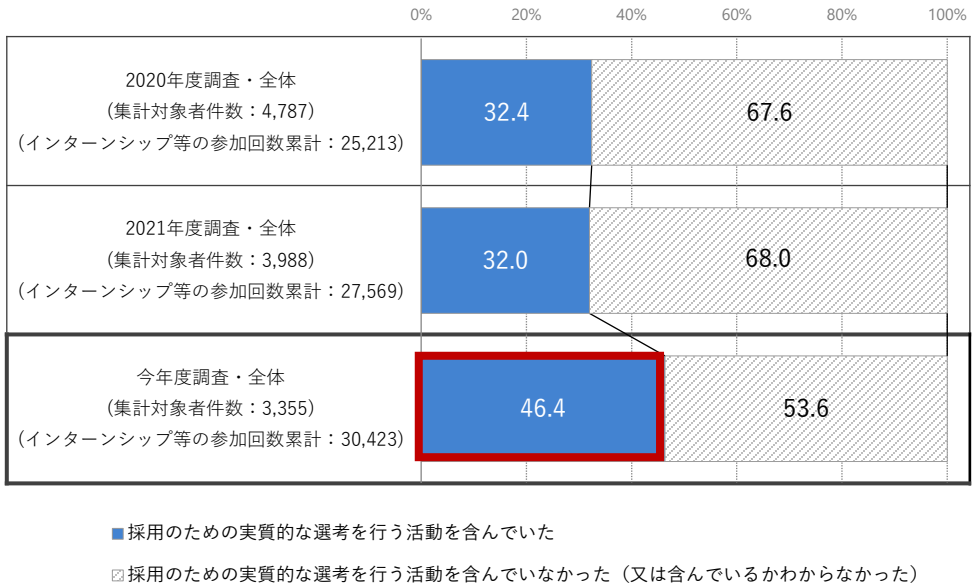
インターンシップ等への参加状況等

- **インターンシップ等が採用のための実質的な選考を含んでいた**割合は**昨年の32.0%から46.4%へと目立って増加。**
- **インターンシップ等参加後に、参加者を対象としたアプローチを受けたか**について、**「採用説明会・セミナーに参加した（2022年2月以前に開催）」が56.1%、「インターンシップ参加者を対象とした早期選考の案内」が54.3%、「エントリーの案内」が42.6%。**

※企業が「インターンシップ」や「ワンデー仕事体験」等と称して実施したプログラムをすべて含めて回答を求めた。

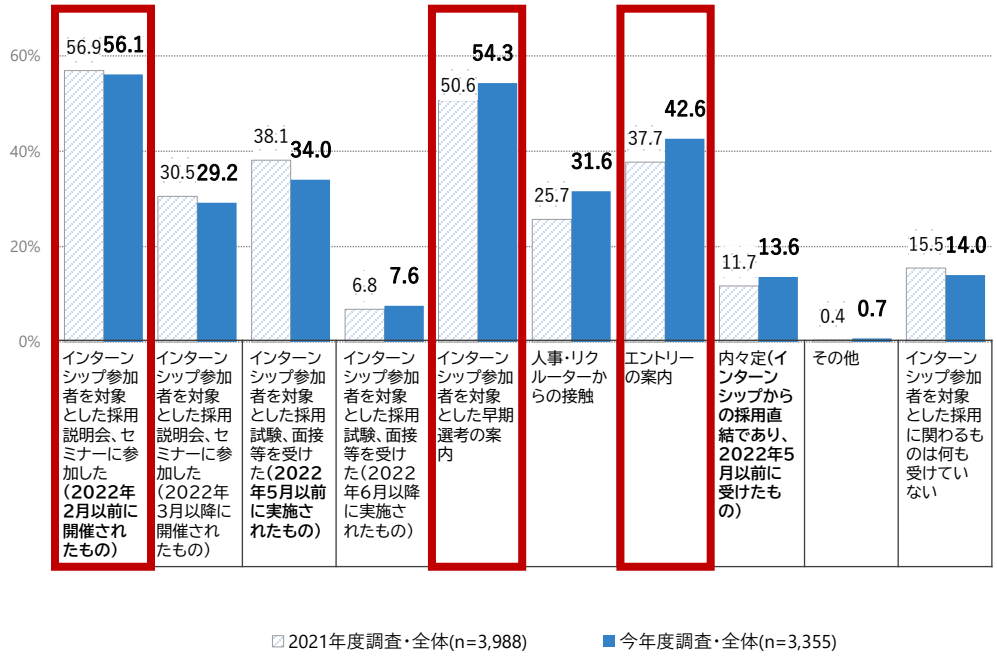
参加したインターンシップ等における実質的な選考実施の有無

※速報報告書p27に掲載



インターンシップ等参加後に、参加者を対象としたアプローチを受けたか

※速報報告書p28に掲載

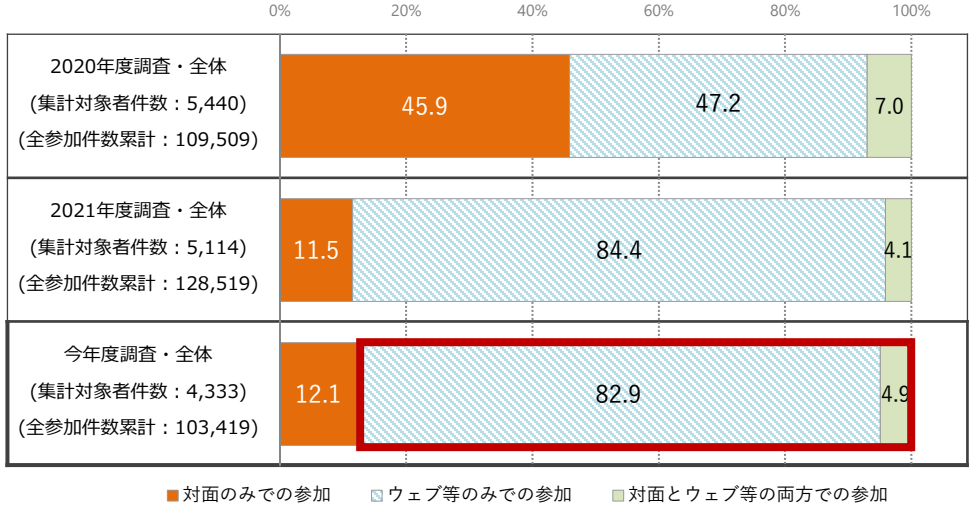


企業説明会等や採用面接への参加方法

- **企業説明会やセミナー等**において、**ウェブ等の方法で参加した割合は約９割**であり、**昨年度と同様の傾向。**
- **採用面接**において、**ウェブ等の方法で参加した割合は約９割**であり、**昨年度と同様。**一方で**「対面とウェブ等の両方での参加」の割合が増えている。**

企業説明会やセミナー等への参加方法

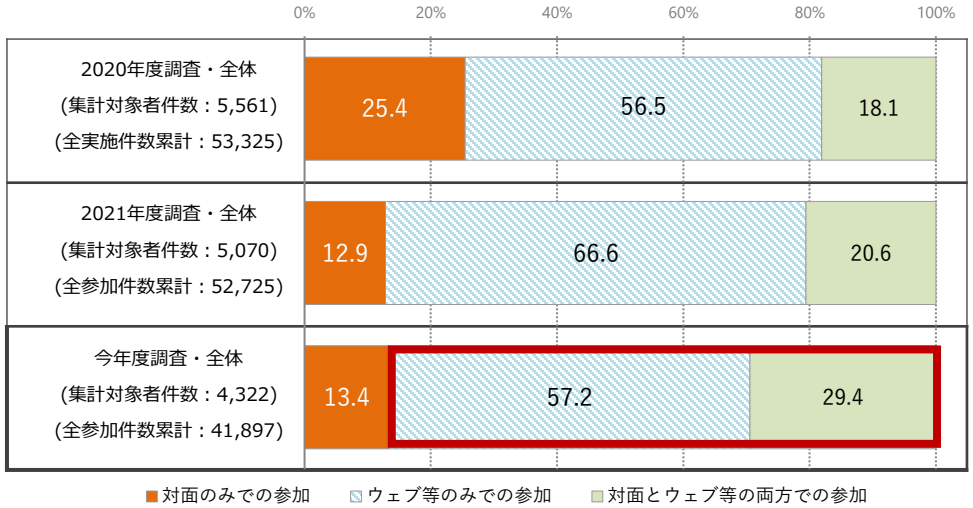
※速報報告書p87に掲載



「ウェブ等のみでの参加」,「対面とウェブ等の両方での参加」は87.8%

採用面接の参加方法

※速報報告書p88に掲載



「ウェブ等のみでの参加」,「対面とウェブ等の両方での参加」は86.6%

※全参加件数は、各方法で実施したと回答した件数を合計した数。

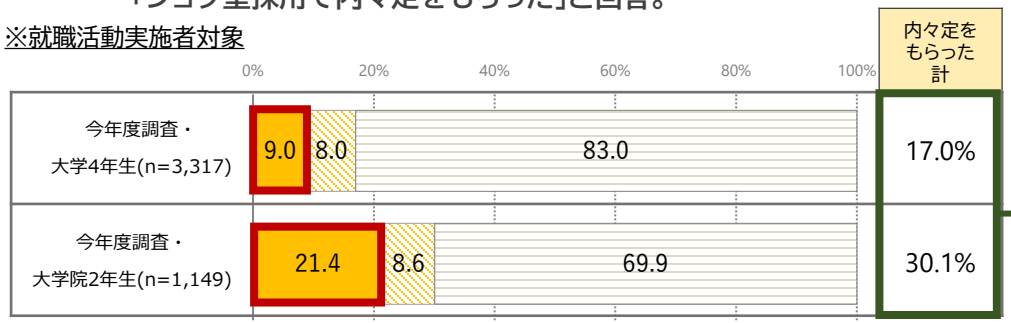
ジョブ型採用について

- 就職活動実施者におけるジョブ型採用での内々定の状況について、**大学４年生は17.0%が、大学院２年生では30.1%が、「ジョブ型採用で内々定をもらった」と回答（就職活動実施者全体の18.5%、827人）。**
- 「**自身の専門性（学部・院での学業や資格等）と合致する**」と回答した割合は、**大学院2年生で21.4%**と大学4年生と比較して特に高く、また就職活動実施者における文系・理系別では**理系で21.4%**と、文系と比較して特に高い。
- ジョブ型採用で内々定を受けた職種について、大学4年生と大学院2年生を比較すると、「**研究・設計開発**」**は大学4年生で5%前後**に対し、**大学院2年生では約4割**となっている。
- 一方、「**営業**」「**経理財務**」「**人事**」「**一般事務**」については、大学院2年生に比べて、**大学4年生**の割合が比較的高い。

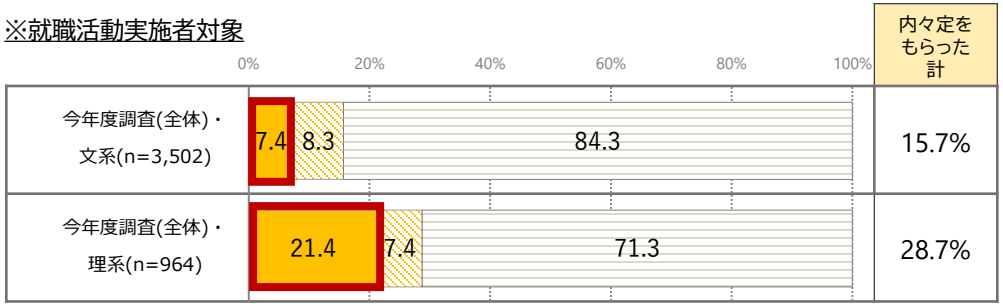
ジョブ型採用での内々定の状況

※就職活動実施者全体(n=4, 466)では、18.5%(827人)が「ジョブ型採用で内々定をもらった」と回答。

※就職活動実施者対象



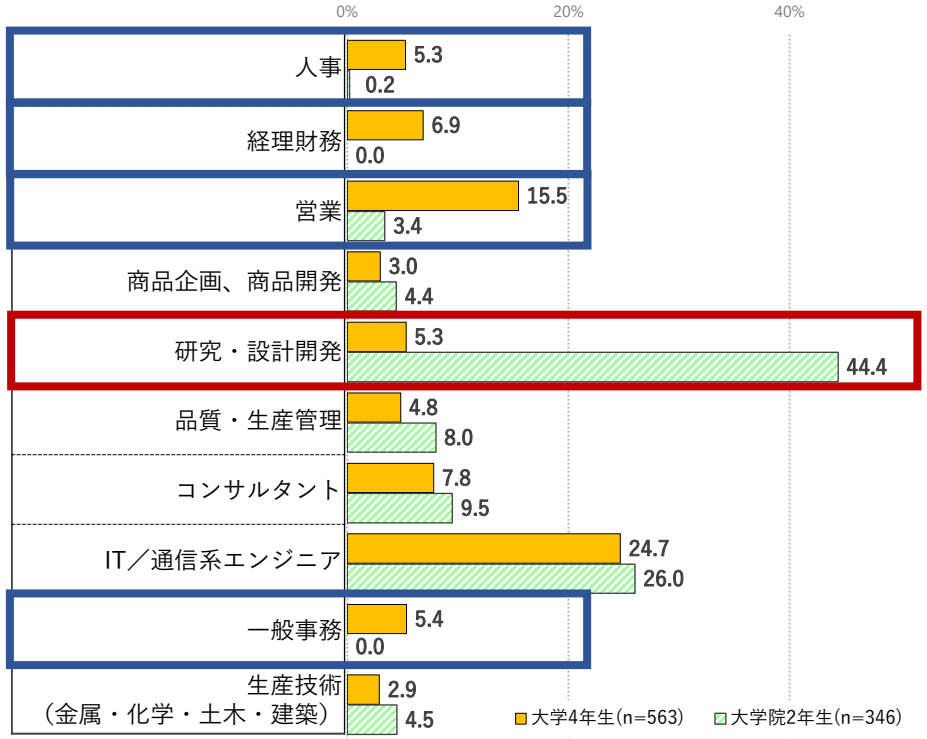
※就職活動実施者対象



■ジョブ型採用で内々定をもらい、自身の専門性（学部・院での学業や資格等）と合致する
▨ジョブ型採用で内々定をもらったが、自身の専門性（学部・院での学業や資格等）と合致していない
□ジョブ型採用で内々定をもらっていない

ジョブ型採用での内々定の職種

※ジョブ型採用で内々定をもらった人対象



※大学4年生・大学院2年生ともに4%未満の職種、「その他分類されない専門職種」については割愛

※「特定の職務等を限定した採用（ジョブ型採用）」については、設問に入る前に「特定の職務等に限定した採用。入社後の職務内容を確定させた採用方式のこととする。または、入社後に従事する仕事が決まっており、その仕事を遂行できる人材を採用するため、応募者の専門能力を重視する。」と説明した。

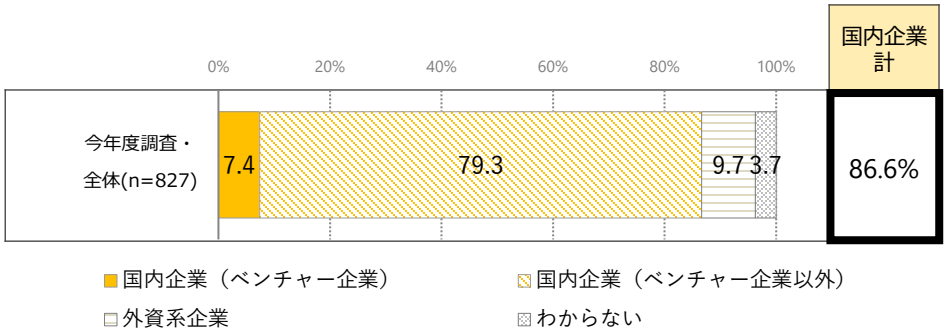
ジョブ型採用での内々定について

- ジョブ型採用で内々定を受けた学生（就職活動実施者全体の18.5％、827人）のうちの**86.6％が国内企業。**さらに、卒業・修了年度の5月以前に最初に内々定を受けた者と、卒業・修了年度の6月以降に受けた者で比較すると、**卒業・修了年度の5月以前**の方が、卒業・修了年度の6月以降より、**外資系企業の割合が比較的高い。**
- ジョブ型採用とそうでない採用で待遇（初任給や年俸・諸手当等）の違いがあったかについて、「**ほぼ同等で変わらない**」が44%。「**ジョブ型採用のほうが好待遇**」**とする回答割合は約1/4（24.9%）。**

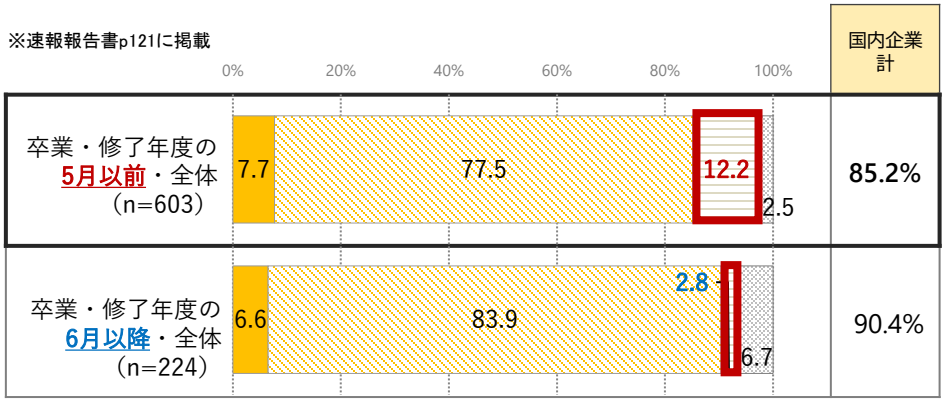
ジョブ型採用での内々定を受けた企業

※ジョブ型採用で内々定をもらった人対象

※速報報告書p119に掲載



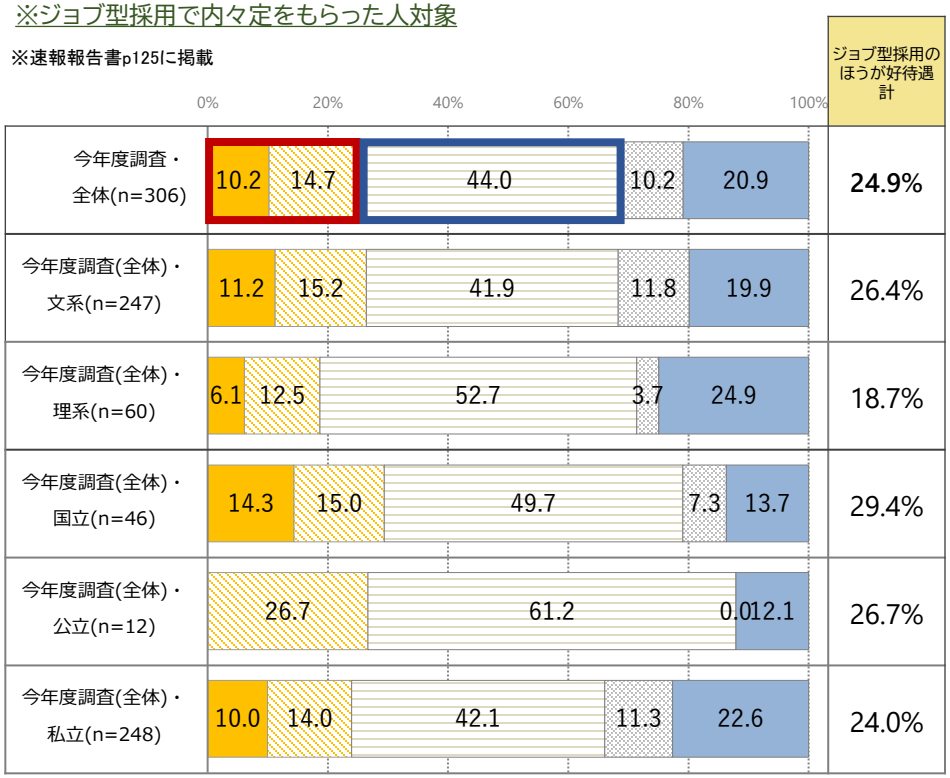
※速報報告書p121に掲載



ジョブ型採用とそうでない採用での待遇の違い

※ジョブ型採用で内々定をもらった人対象

※速報報告書p125に掲載

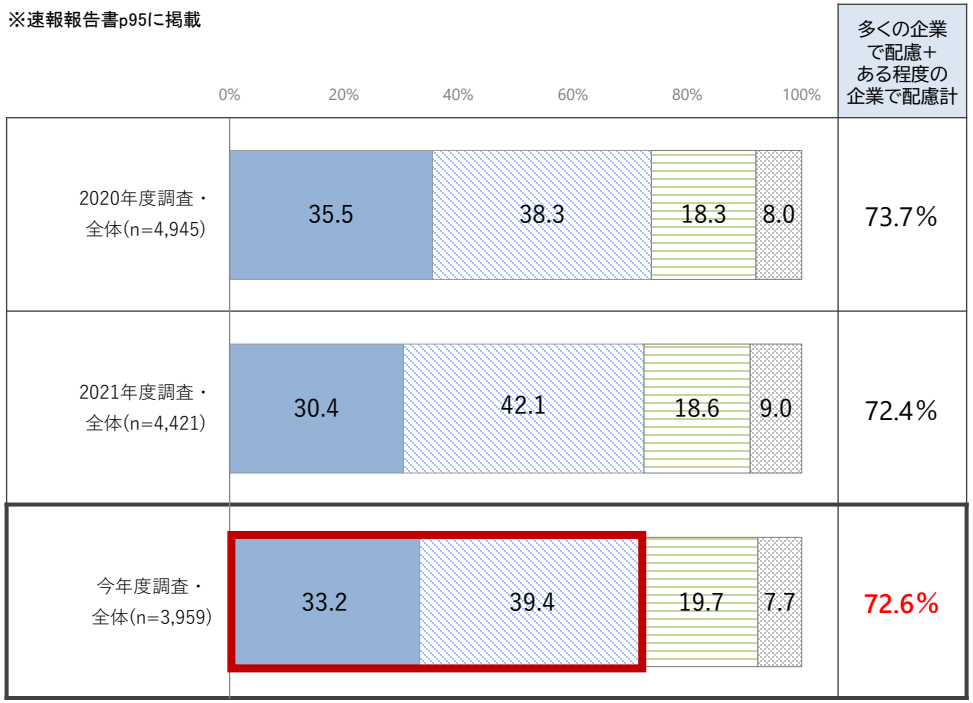


企業による学業等や留学経験者への配慮

- 多くの企業又はある程度の企業で、
  - ・説明会や面接等の日程に関して、**授業や試験等の妨げにならないよう配慮がなされていたと感じた学生の割合は約７割。**
  - ・留学経験者向けのスケジュールや情報を示すなど、**留学により不利にならないよう配慮がなされていたと感じた学生の割合は**依然として**４割程度にとどまる。**

説明会や面接等の日程・時間帯等

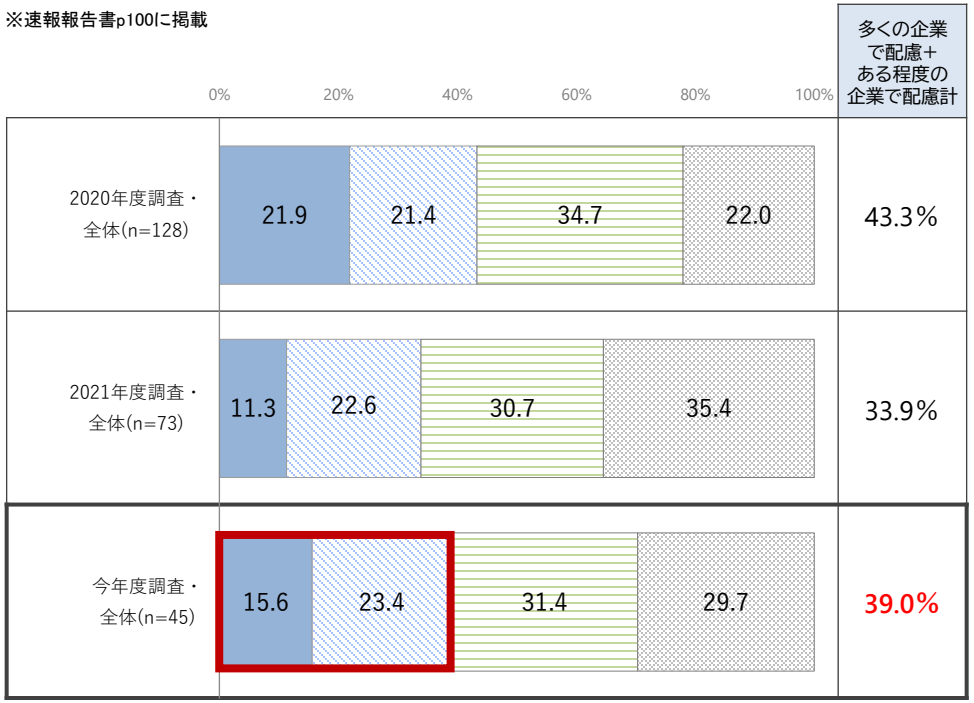
※速報報告書p95に掲載



※「就職活動最優先で活動していたため、よくわからない」と回答した者を除いたうえで集計

留学経験者に対する企業側の配慮の状況

※速報報告書p100に掲載



※「留学経験者であることを特に意識せずに就職活動を行っていたため、わからない」と回答した者を除いたうえで集計

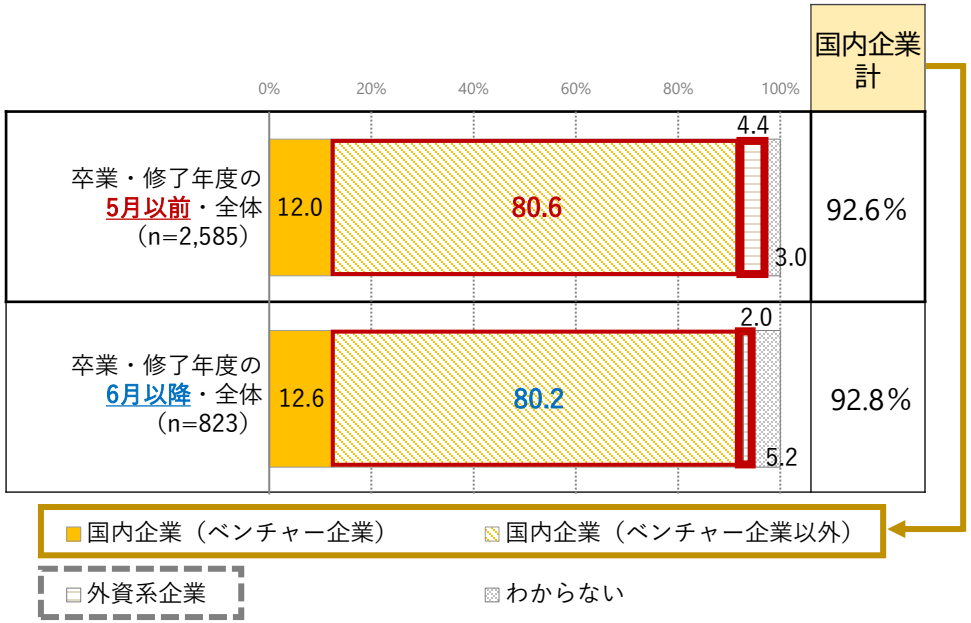
内々定を受けた企業の種類

- 卒業・修了年度の5月以前に最初に内々定を受けた者と、卒業・修了年度の6月以降に受けた者で比較すると、最初に内々定を受けた時期と就職予定企業の内々定を受けた時期共に、両者の回答結果はほぼ同様で、「国内企業（ベンチャー企業以外）※」が**約8割**と最も高く、「国内企業（ベンチャー企業）」と合わせて「国内企業」と回答した者は**全体で約9割**。

【最初に内々定を受けた時期】と企業の種類

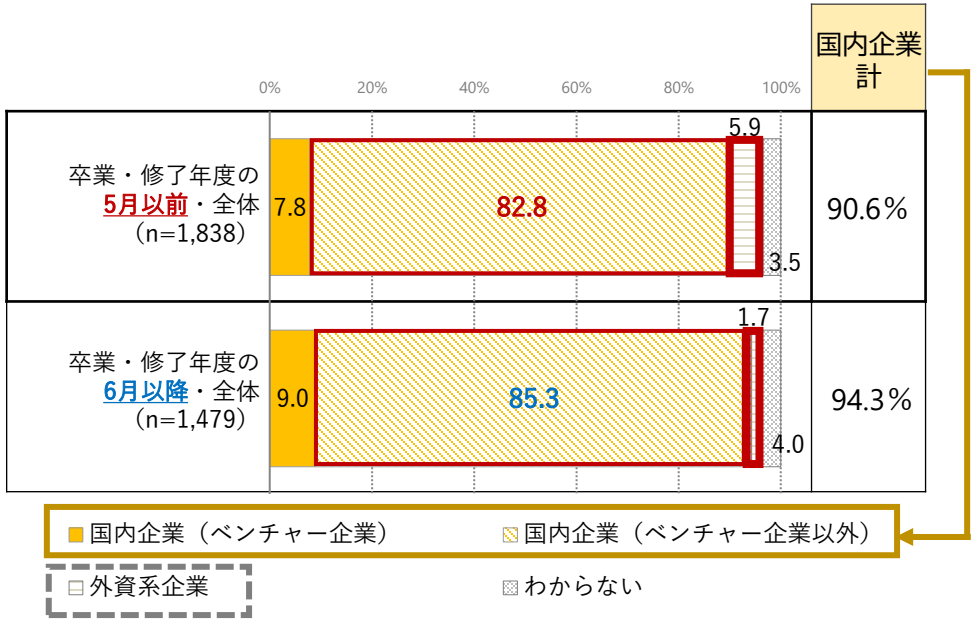
※速報報告書p84に掲載

※公務員・教職員志望者除く



【就職予定企業の内々定を受けた時期】と企業の種類

※公務員・教職員志望者除く



※ベンチャー企業については、「ここでは、独自のアイデアや技術で新しいサービスやビジネスに挑戦している企業のことする。」と、回答者に案内した上で調査を行った。

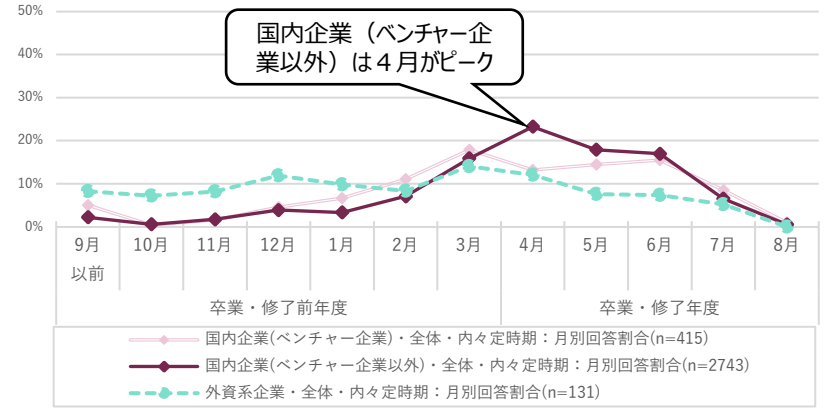
内々定を受けた時期と企業の種類

- 内々定を受けた時期を企業の種類別に見ると、最初の内々定について「**国内企業（ベンチャー企業以外）**」では「**2022年4月**」が約２割と他時期と比べて高い。
- 就職予定企業では、「**国内企業**」では６月が最も高い。一方、「**外資系企業**」では２月以前の割合が４割にのぼり、「**国内企業**」と比べて早い傾向がみられた。

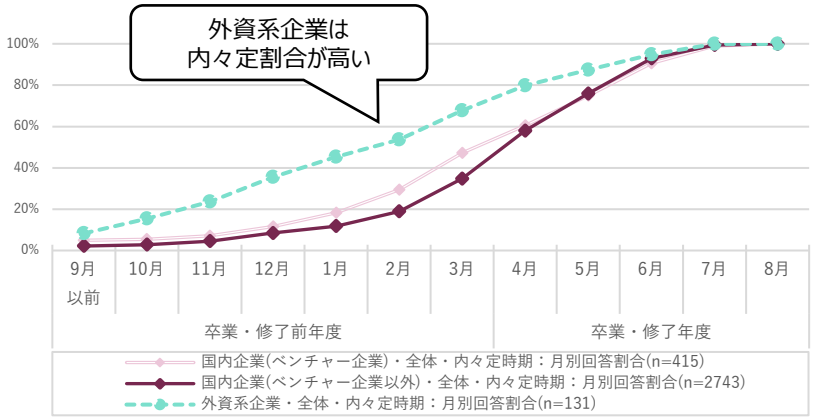
内々定を受けた時期（最初）

※速報報告書p132に掲載　※公務員・教職員志望者除く

月別回答割合



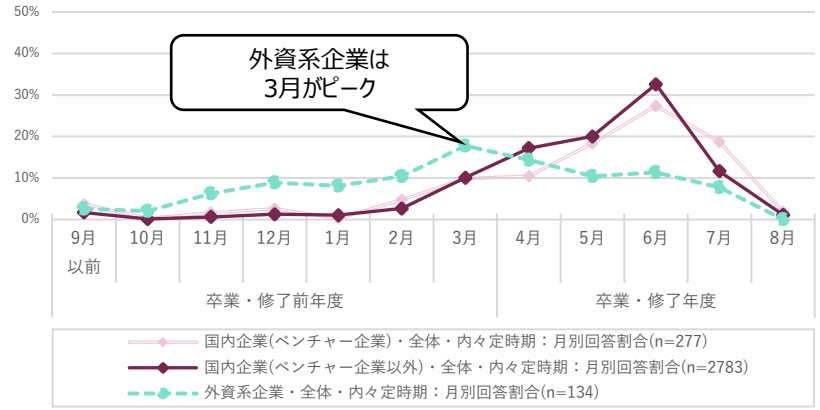
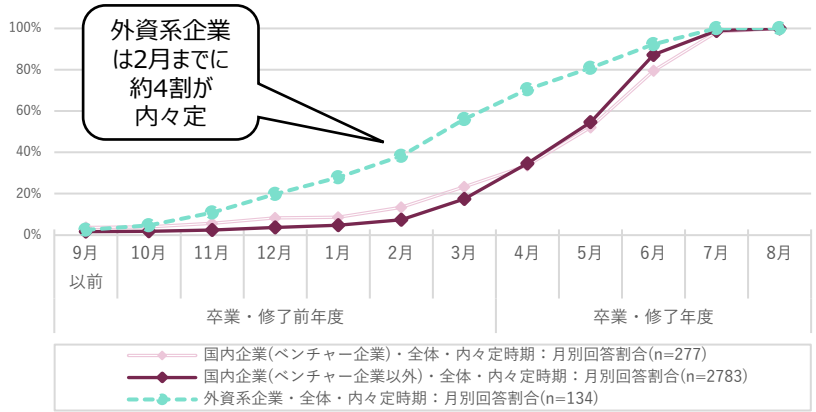
累計割合



内々定を受けた時期（就職予定企業）

※速報報告書p132に掲載　※公務員・教職員志望者除く

月別回答割合



累計割合